

# 続・変わりゆく町並み

## —西原の「海」と「地名」—

今年度からマリントウン・プロジェクトが着工されました。西原の海岸線一

帯も、工事が進められています。

西原の海の地名は、「おもしろさうし（一六二三年）」に「がじやのうら（我謝の浦）」との記述があります。西原の海岸線はサンゴ礁のイノー（礁地）に形成された干潟が広がっており、昔から風光明媚なところとされ、歌謡にうたわれたりしたようです。また、戦前まで尚家の別荘「浜之御殿」が建てられています。

海岸には伊保之浜・仲伊保と呼ばれた屋取集落があり、主に廃藩置県前後に首里から田舎下りした士族の人々が居住していました。

農閑期になると、沖の珊瑚礁からウミイサー（サンゴ石灰岩）の採石が営まれていたようです。今でも町内の集落には切り出されたウミイサーで造られた井戸や石垣・墓などが残っています。

かつて、伊保之浜には山原船も出入りし、マキ・木材、泡盛や日用雑貨などの取引が行われていたようです。それ



△「ガージャガンドウ」と呼ばれた海岸線（仲伊保）

以前から西原の海岸が栄えていたことは、前述の「おもしろ」や、我謝遺跡から多量の中国製陶磁器が出土していることから推測できるといえます。

戦後は、エッソ・スタンダード（現・南石油）の建設で遠浅の海岸が埋め立てられました。その場所は、尚円王にまつわる「インスジー（内間高干瀬）」と呼ばれた干潮がありました。そのほかにも「ボージビシ」、「ガージャガンドウ」などと呼ばれた地名があります。

子供のころに、チンボロー（カンギク）を採ったり、干潟の潮だまりで熱帯魚を見たりした西原の海岸の姿は変わっていくけれども、このよな地名はぜひ残しておきたいものです。